

令和6年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

資料編

令和7年3月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

令和6年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書 資料編

【目次】

I	1年間の活動実績	1
1.	授業評価実施	1
	令和6年度前期「学生による授業評価」実施結果	1
	令和6年度後期「学生による授業評価」実施結果	2
	令和6年度「教職大学院実習科目の授業評価」実施結果	3
2.	ベストクラスの選定、公表及び授業公開	4
	ベストクラス選定結果一覧（令和5年度開講科目）	5
	令和6年度（前期）授業公開一覧（令和5年度ベストクラス選定科目）	6
	令和6年度（後期）授業公開一覧（令和6年度ベストクラス選定科目）	7
	授業公開アンケート集計結果	8
3.	学生・教職員FD活動交流会の実施	13
	学生・教職員FD活動交流会実施結果	13
	学生FDパートナー募集ポスター	24
4.	いつでもどこでもFD	25
	いつでもどこでもFD報告書	25
II	資料	27
1.	本学におけるFDの定義について	27
2.	兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み	28
3.	国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程	29
4.	授業公開の実施に関する申合せ	32
5.	本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図	33
6.	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(令和6年度)	34

1. 授業評価実施

【令和6年度 前期「学生による授業評価」実施結果】

1. 実施期間

7月19日（金）～9月30日（月）まで

2. 実施方法

(1) Web方式

(2) 授業評価の実施手順は、次のとおり。

- ・授業の終盤等相応の機会に、授業担当教員が、学生に授業評価への回答を呼びかける。
- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答する。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課の委託業者からメールにて行う。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を、システム上で随時確認することができる。
- ・システムには、各学期の回答が蓄積されていくため、学生はいつでも過去の回答を参照することができる。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は、学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・授業評価の結果が、成績に影響することはないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・複数の教員で分担している授業の場合は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

3. 実施結果

	令和6年度 (7/19～9/30)	【参考】 令和5年度 (7/20～10/6)
対象科目数 (A)	429	434
履修者数 (B)	10,866	10,477
回答者数 (C)	5,388	6,454
回答率 ((C) ÷ (B))	50 %	62 %

【令和6年度 後期「学生による授業評価」実施結果】

1. 実施期間

12月24日（火）～3月21日（金）まで

2. 実施方法

(1) Web方式

(2) 授業評価の実施手順は、次のとおり。

- ・授業の終盤等相応の機会に、授業担当教員が、学生に授業評価への回答を呼びかける。
- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答する。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課の委託業者からメールにて行う。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を、システム上で随時確認することができる。
- ・システムには、各学期の回答が蓄積されていくため、学生はいつでも過去の回答を参照することができる。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は、学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・授業評価の結果が、成績に影響することはないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・複数の教員で分担している授業の場合は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

3. 実施結果

	令和6年度	【参考】
	(12/24～3/21)	令和5年度 (12/22～3/22)
対象科目数 (A)	434	429
履修者数 (B)	10,795	10,866
回答者数 (C)	4,330	5,388
回答率 ((C) ÷ (B))	40 %	50 %

【令和6年度 「教職大学院実習科目の授業評価」実施結果】

1. 実施期間

1月17日（金）～3月3日（月）まで

2. 実施方法

(1) Webフォームによるアンケート方式

(2) 教育実践高度化専攻の学生を対象にMicrosoft Formsのウェブアンケート形式により実施する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は学生の実習への取組や理解度を把握し、実習の改善を行うために実施するものであること。
- ・回答は一括で統計的に処理され、回答が成績に影響することは全くないので、実習に参加して感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、コースにフィードバックし、実習科目の改善に活かし、公表（学内限定）する。

4. 実施結果

	令和6年度 (1/17～3/3)	【参考】 令和5年度 (1/26～3/22)
対象科目数 (A)	25	25
履修者数 (B)	165	163
回答者数 (C)	30	64
回答率 ((C) ÷ (B))	18 %	39 %

2. ベストクラスの選定、公表及び授業公開

●ベストクラスの選定については、令和5年度に開講された授業科目を対象に、学生・教職員FD活動交流会での選定及びFD推進委員会での審議を経て、11科目のベストクラスを決定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が3.5以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに11科目程度に絞り込んだ。その後、学生・教職員FD活動交流会のメンバーが、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的にベストクラスを決定した。

また、決定したベストクラスについては、12月開催の研究科教授会で共有するとともに、FD活動に関するウェブサイトを選定理由書を添えて公表した。

●「ベストクラス」という概念について

「ベストティーチャー賞」なら、すでにいくつもの大学が制度として導入しているが、本学は、「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」である。なぜ「ベストティーチャー」でないのか、そして、なぜ「賞」でないのか。ここに、「ベストクラス」という概念に込められたユニークな企図がある。

なぜ「ベストティーチャー」でないのか。授業は教員の努力だけでよいものにはならない。教員のみならず、学生の高い参加意識があってはじめてよくなる。そうだとしたら、授業を担当する教員にのみ焦点があてられる「ベストティーチャー」という表現はふさわしくない。

なぜ「賞」でないのか。「ベストクラス」は、優れた授業のモデルや規準を定め、それにあてはまるものを選ぶのではない。授業にはそれぞれ異なった意図やねらいがあるはずであり、それを一つの規準で評価することは授業の画一化を招きかねない。優れた授業とはどのようなものかという問いを失った瞬間に、優れた授業の多様性が失われる危険性がある。このように考えたとき、「賞」はなじまない。

●「ベストクラス」の選定

「ベストクラス」の選定にあたっては、学生と教職員がFDについて公式に協議する「学生・教職員FD活動交流会」が大きな役割を果たしている。

選定の流れは、次の通りである。まず、前年度の授業評価結果の自由記述を検討して候補となる授業科目を選ぶ。つぎに、「学生・教職員FD活動交流会」のメンバーが、授業担当教員と受講者の双方にインタビューを行い、選定理由書を作成する。そして、それをFD推進委員会で議論して最終的に選定するのである。

この過程では、学生と教職員が協働して作業にあたる。よい授業とはなにか、率直な意見交換が行われ、学生にとっても教職員にとっても、授業について思考する刺激的で貴重な機会となっている。

●「ベストクラス」の目的

本学の教育の質の向上のため、よい授業を教職員と学生が共有することにある。選ばれた授業科目のそれぞれにある「持ち味」を共有していただければ幸いである。

●ベストクラス選定科目の授業公開

今年度は、前期に令和5年度ベストクラス選定科目から2科目、後期に令和6年度ベストクラス選定科目から2科目の授業公開を行い、教員間の相互研修の場を設けた。

ベストクラス選定結果一覧（令和5年度開講科目）

令和6年11月25日 第3回FD推進委員会

課程	科目名称	標準履修年次	科目区分	R5年度受講者数	R5年度開設状況
学部	教育心理学	1	教職キャリア科目群／教職基礎科目	176	前期木2
	社会の中の言語文化	1	教養科目群／社会課題探究科目	100	前期火4
	クラスセミナーI（Dクラス）	1	教養科目群／基礎的アカデミック能力科目	21	前期金3
	教養ゼミ（13）	2	教養科目群／基礎的アカデミック能力科目	17	後期
	異文化理解I	2	専門科目群／教科教育専門科目（英語グループ）	36	後期集中講義
大学院（修士）	聴覚障害児教育基礎技能（昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／特別支援教育の理論と実践を学ぶ科目群	25	前期金2
	コーディネート概論（昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／特別支援教育の理論と実践を学ぶ科目群	57	前期木3
	家族支援心理学（昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／特別支援教育の理論と実践を学ぶ科目群	59	後期月3
大学院（専門職）	理科教材開発実習B（昼間クラス）	1	専門科目（理数系教科マネジメントコース）	6	前期月4・5
	第二言語習得と外国語学習（昼間（他コース専門））	1・2	専門科目（他コース）	20	前期月3
	社会心理学に基づく学級経営の実践開発（昼間（他コース専門））	1・2	専門科目（他コース）	22	後期木3

令和6年度（前期）授業公開一覧（令和5年度ベストクラス選定科目）

課程	科目名称	授業形態	令和6年度担当教員	標準履修年次	科目区分	令和6年度			
						受講者数(人)	教室(実施方法)	開講状況	授業公開日時 [担当教員]
大学院 (修士)	コーディネート概論（昼間クラス）	講	石橋由紀子	1・2	専攻科目／専門科目／特別支援教育の理論と実践を学ぶ科目群	58	共通講義棟 204	前期 木3	7月18日（木） 3限 [石橋由紀子]
	特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション（昼間クラス）	講・演	宇野 宏幸 岡村 章司 石橋由紀子	1・2	専攻科目／専門科目／特別支援教育を多面的に理解する科目群	12	共通講義棟 312	前期 木2	7月4日（木） 2限 [岡村 章司]

令和6年度（後期）授業公開一覧（令和6年度ベストクラス選定科目）

課程	科目名称	授業形態	令和6年度 担当教員	標準 履修 年次	科目区分	令和6年度			
						受講 者数 (人)	実施方法	開講状況	授業公開日時 [担当教員]
学部	教養ゼミ (13)	演	永田 智子	2	教養科目群／基礎 的アカデミック能 力科目	8	<対面> 自然棟2F 「STEAM Lab」 <オンライン> Zoom①	後期 火2	12月17日（火） 2限 [永田 智子]
	異文化理解 I	講・演	山本 大貴	2	専門科目群／教科 教育専門科目（英 語グループ）	39	<対面> 共通講義棟 213教室 <オンライン> Zoom②	後期 集中講義	2月17日（月） 3限 [山本 大貴]

授業公開アンケート集計結果
(特別支援教育リーダーのための創発的
コミュニケーション (昼間クラス))

1. 実施状況

日 時：令和6年7月4日(木) 10:40～12:10

場 所：共通講義棟312

参加者数：2名(教員0名 事務職員2名)(受講学生除く)

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	0人	1人
②参考になった	0人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人

授業公開アンケート集計結果 (コーディネート概論(昼間クラス))

1. 実施状況

日 時：令和6年7月18日(木) 13:10~14:40

場 所：共通講義棟204

参加者数：4名(教員2名 事務職員2名)(受講学生除く)

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	2人	0人
②参考になった	0人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 (原文どおり)

【たいへん参考になった】

- ①授業時間を通して、すべての受講生が笑顔だったことがとても印象的でした。また、受講生同士の言葉によるやりとりを促す「橋渡し」という仕組みがたいへん興味深く、参考にさせていただこうと思いました。参観させていただき、ありがとうございました。
- ②・履修生が自律的な学習集団になっている点
 - ・対面形式の授業とオンライン形式の授業を日常的に併用している点
 - ・グループワークの成果の発表を川柳のコンテストで行わせた(アソビの要素の導入)点
 - ・授業の準備が綿密に行われていた点

3. 授業公開についての意見や要望等 (原文どおり)

- ①・今回はグループワーク中心の授業でした。授業担当教員の講義中心(そういう回があれば)の授業も拝見したいものです。
 - ・兵庫教育大学の全教員が1年に一度、あるいは学期に一度、授業公開をすれば刺激になるでしょう。

授業公開アンケート集計結果 (教養ゼミ (13))

1. 実施状況

日 時：令和6年12月17日(火) 10:40~12:10

場 所：自然棟2F「STEAM Lab」・オンライン (Zoom)

参加者数：9名(教員6名 事務職員3名)(受講学生除く)

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
① たいへん参考になった	1人	0人
② 参考になった	1人	0人
③ あまり参考にならなかった	1人	0人
④ 参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 (原文どおり)

【たいへん参考になった】

- ① 学生の発表を聞いて、自分事として考えてきた様子がよく分かりました。どんな授業にすれば学生が前のめりになるのか、考えていきたいと思います。

【参考になった】

- ① steamに関する授業の実際に触れられ、学生の学びのありようがわかりました。また外部人材との連携のあり方についても参考になりました。

【授業公開についてのご意見やご要望等をお書きください】

- ① 色々な授業を拝見させていただくことは、勉強になります。ベストクラス以外の何気ない授業も参考になることが多いと思うので、ふらりと授業に参加できるような風通しの良さが生まれると良いと思いました。
- ② 公開授業の案内の際に、単にベストクラスの授業を公開しますというだけでなく、昨年度のどのような取組や内容が評価されてベストクラスに選ばれたのか、その経緯について事務局からの説明があると良いと思いました。また、ベストクラスの趣旨からすると、ベストクラスは昨年度の受講生に対する評価でもあると思うのですが、今年度の受講生も同様にすぐれている点があると解釈して良いのかどうか、そのあたりの見取りの説明もあると参考にしやすいように思いました。
- ③ 授業内容にもよりますが、今回のようにオンラインもあれば、参加しやすくなるかと思っています。

授業公開アンケート集計結果 (異文化理解Ⅰ)

1. 実施状況

日 時：令和7年2月17日（月）13：10～14：40

場 所：共通講義棟213教室・オンライン（Zoom）

参加者数：6名（教員3名 事務職員3名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
① たいへん参考になった	2人	0人
② 参考になった	1人	0人
③ あまり参考にならなかった	0人	0人
④ 参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等（原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ① FD交流会でのD班で担当教員の先生と受講者の皆さんにインタビューさせていただいて概要を了解していたつもりであったものが、実際に参観させていただいてよりイメージ化されたり、思い込みを正されたりして、新たな発見があった。何より、1人を除いてすべての学生が、相当にテンポの速い担当教員の（英語での！）説明や指示に積極的にコミットしている様子（例えば、後半では、教員の指示がない内に求められるであろうペア／グループディスカッションを始めるようになっていて驚いた。自分の発見や納得したことを大げさに表明する様は、自分が授業者だったら「やったぜ！」と思うところだろう。）が伝わってきて感心した。
- ② 授業内容がたいへん魅力的で、拝見していてとても楽しかったです。受講者同士のディスカッションもふんだんに盛り込まれていたのですが、魅力的な授業内容がそれを支えているのだと思いました。

【参考になった】

- ① 事前の準備をかなりしっかりされていること、学生同士の相互作用を重んじていること、日米だけでなく同じ授業を受けている留学生の文化も逐次問いかけ違いを楽しめているように感じられたこと、授業全体の明るい雰囲気 etc...学生たちの表情をみているだけでも、学びが深まっている様子、学びが生活に繋がっていく様子が見て取れて、参考になりました。

【授業公開についてのご意見やご要望等をお書きください】

- ① 貴重な機会を作っていただき、関係者の皆さんに御礼申し上げます。せっかくの機会なので、もっと参観者が増えてくれるとよいなと素直に思った。Zoomで授業の様子を記録しているので、可能ならLibraryとして残して、後日、兵教関係者ならいつでも見られるようにできたらいいなあと考えた。
- ② zoomでの参加だったので、音声聞き取りづらくその点は残念でした。せっかくのベスタクラスですので、もし今後映像公開することなどありましたら、教員に集音マイクを付けていただいてもよいかも知れないと思いました。そのくらい「もっと聞けたら」と思う授業でした。公開していただき、またご準備いただきありがとうございました。

3. 学生・教職員FD活動交流会の実施

第1回 学生・教職員FD活動交流会【昼間の部】の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和6年6月26日（水）16時30分～18時00分
総合研究棟3階 大会議室

《会議形式》 対面形式によるミーティング

《参加者》	39名	(内訳)	大学院学生	10名
			学部学生	19名
			教員	7名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. 学生FDパートナー任命証交付式

座長から、学生FDパートナーの任命証交付式にかかる説明が行われ、引き続き、学部及び大学院の代表者1名に対して、任命証の交付が行われた。次いで、代表者以外の方は、机上の任命証について確認いただきたい旨、説明が行われた。

2. 学生・教職員FD活動交流会及びベストクラスについて

座長から、資料1-1～-3、参考1-1、-2に基づき、学生・教職員FD活動交流会及びベストクラスについて説明が行われた。

3. ベストクラスの選定について

座長から、資料2-1～-3、参考2に基づき、ベストクラスの選定について説明が行われた。

4. ベストクラス選定にかかる班分け及び自己紹介について

座長から、資料3-1、-2に基づき、今後、選定作業を行っていただく班について説明が行われた。

5. 選定作業

座長から、選定作業に先立ち、以下のアナウンスが行われた。

- ・選定作業は、次回も引き続き行うこと。次回は各班から「ベストクラス候補選定結果報告書（参考3）」の発表を行っていただく予定であること。
- ・シラバスを前方に置いているため、適宜ご参照いただきたいこと。

引き続き、資料4-1～7に基づき、選定作業が行われた。

6. 次回の交流会は7月3日（水）4時限の開催を予定している。

第1回 学生・教職員FD活動交流会【夜間の部】の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和6年6月28日（金）18時30分～20時00分

Teams による開催

《会議形式》 オンライン形式によるミーティング

《参加者》	10名	（内訳）	大学院学生	6名
			教員	1名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. 学生FDパートナー任命証交付について

座長から、学生FDパートナーの任命証交付にかかる説明が行われ、引き続き、任命証については、要望があれば郵送するため、その場合は学務課教務企画チームまでご連絡いただきたいことの説明が行われた。

2. 学生・教職員FD活動交流会及びベストクラスについて

座長から、資料1-1～-3、参考1-1、-2に基づき、学生・教職員FD活動交流会及びベストクラスについて説明が行われた。

3. ベストクラスの選定について

座長から、資料2-1～-3、参考2に基づき、ベストクラスの選定について説明が行われた。

4. ベストクラス選定にかかる班分け及び自己紹介について

座長から、資料3-1、-2に基づき、今後、選定作業を行っていただく班について説明が行われた。

5. 選定作業

座長から、選定作業に先立ち、以下のアナウンスが行われた。

- ・選定作業は、次回も引き続き行うこと。次回は各班から「ベストクラス候補選定結果報告書（参考3）」の発表を行っていただく予定であること。

引き続き、資料4に基づき、選定作業が行われた。

6. 次回の交流会は7月5日（金）6時限の開催を予定している。

第2回 学生・教職員FD活動交流会【昼間の部】の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和6年7月3日（水）14時50分～16時20分

共通講義棟106（全体部分）、共通講義棟103・107（選定作業部分）

《会議形式》 対面形式によるミーティング

《参加者》	48名	（内訳）	大学院学生	16名
			学部学生	22名
			教員	7名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. ベストクラスの選定について

座長から、資料1-1～-3、参考1に基づき、ベストクラスの選定について、改めて説明が行われた。

2. ベストクラス選定にかかる班分け及び自己紹介等について

座長から、資料2-1、-2に基づき、今後、選定作業を行っていただく班について、改めて説明が行われた。

3. 選定作業

座長から、選定作業に先立ち、以下のアナウンスが行われた。

- ・選定した授業科目は、ベストクラス候補選定結果報告書（資料4）に記入いただきたいこと。
- ・選定作業後は、各班からベストクラス候補選定結果報告書（資料4）の発表を行っていただくこと。
- ・シラバスは各教室の前方に置いているノートパソコンより検索できるため、適宜ご参照いただきたいこと。

引き続き、資料3-1～-7に基づき、選定作業が行われた。

4. 情報共有

各班から、ベストクラス候補について発表が行われた。

5. 今後のスケジュール

座長から、資料1-3、参考1に基づき、今後のスケジュールについて確認が行われた。

- ・ 7月～9月中にインタビューを実施する。
- ・ 10月7日（月）までにベストクラス候補選定理由書（参考2-2）を作成のうえ、学務課教務企画チームへ提出する。
- ・ 次回の交流会は10月30日（水）又は11月6日（水）の開催を予定している。

第2回 学生・教職員FD活動交流会【夜間の部】の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和6年7月5日（金）18時30分～20時00分

Teamsによる開催

《会議形式》 オンライン形式によるミーティング

《参加者》	10名	（内訳）	大学院学生	6名
			教員	1名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. ベストクラスの選定について

座長から、資料1-1～-3、参考1、資料2-1、-2に基づき、ベストクラスの選定について、改めて説明が行われた。

2. 選定作業

座長から、選定作業に先立ち、以下のアナウンスが行われた。

- ・選定した授業科目は、ベストクラス候補選定結果報告書（資料4）に記入いただきたいこと。
- ・選定作業後は、各班からベストクラス候補選定結果報告書（資料4）の発表を行っていただくこと。

引き続き、資料3に基づき、選定作業が行われた。

3. 情報共有

ベストクラス候補について発表が行われた。

4. 今後のスケジュール

座長から、資料1-3、参考1に基づき、今後のスケジュールについて確認が行われた。

- ・7月～9月中旬にインタビューを実施する。
- ・10月7日（月）までにベストクラス候補選定理由書（参考2-2）を作成のうえ、学務課教務企画チームへ提出する。
- ・次回の交流会は10月下旬頃の開催を予定している。

第3回 学生・教職員FD活動交流会【昼間・夜間の部合同】の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和6年11月6日（水）14時50分～16時05分
総合研究棟3階 大会議室

《会議形式》 対面形式によるミーティング

《参加者》	31名	(内訳)	大学院学生	9名
			学部学生	12名
			教員	8名
			事務職員	2名

《実施内容》

1. ベストクラスの選定について

座長から、資料1-1～-3、参考1に基づき、ベストクラスの選定について、改めて説明が行われた。

2. ベストクラス候補の選定

各班からのベストクラス候補選定理由書の説明に先立ち、各班で打合せが行われた。

引き続き、資料2-1、-2に基づき、各班から説明が行われた。

次いで、座長から、学生・教職員FD活動交流会案としてベストクラス候補を確定し、FD推進委員会に附議することの説明が行われ、了承された。なお、ベストクラス候補選定理由書の作成者、ページ数及び選定理由の表記については統一すること、また、必要に応じて、各班へ問い合わせを行うことについて、併せて説明が行われた。

3. ベストクラス選定過程等について意見交換

座長から、ベストクラス選定過程等について意見がないか、確認が行われた。引き続き、学生・教職員FD活動交流会の終了後に、アンケートフォームのURLを通知し、意見がある場合は、回答していただくよう依頼が行われた。

4. 今後のスケジュール

次回の交流会は12月下旬頃の開催を予定している。

第4回 学生・教職員FD活動交流会【昼間・夜間の部合同】の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があって、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和7年2月26日（水）16時30分～18時00分

イノベーション・commons

《会議形式》 対面とオンラインを併用したハイフレックス型

《参加者》	27名	(内訳)	大学院学生	12名
			学部学生	4名
			教員	9名
			事務職員	2名

《実施内容》

1. 学生による授業評価について

学生による授業評価の改善にかかる検討事項について説明を行い、意見交換を行う。

<主な意見>

- ・誹謗中傷にあたるコメントを減らすために、「度が過ぎたコメントは外部機関に相談します。」という一文を追加するとよいのではないか。
- ・自由記述欄に字数制限をかけるべきである。
- ・教員と学生が授業について対面で話す機会や振り返りの時間を設けるとよいのではないか。
- ・事務作業軽減のため、AIの要約機能やフィルタリング機能を通してから、授業担当教員に返却してはどうか。
- ・数年間同じ内容の授業を行っているため、自由記述のコメントも固定されてくるため、大きく授業内容を変えた最初の3年間は自由記述欄をオープンにして、それ以降は自由記述欄をクローズできる選択肢があってもよいのではないか。
- ・メールでのやりとりが増えているため、学生の声を教員に届ける機会がない。対話の場を設けながら、授業を進めていくことが必要ではないか。
- ・学生と教員の双方向でやりとりができるように、クラスで意見を集約し、まとめてコメントすればよいのではないか。
- ・学期末にまとめて全教科の評価を行うのは、学生にとって負担が大きいため、授業中に

実施できるように回答期間を工夫するとよいのではないか。

- ・自由記述欄は学生の意見表明の場であり、自由記述欄でないと評価できないこともあるため、多少ネガティブな記載があっても受け入れるべきである。
- ・誹謗中傷にあたるコメントをなくすために、記名式にするとよいのではないか。
- ・改善点について記入する欄など、自由記述欄にも項目を設けるとよいのではないか。
- ・前年度の自由記述を学生が閲覧できるようにし、その意見を参考に履修登録ができる仕組みがあってもよいのではないか。
- ・自由記述欄があることで、項目に該当しない意見も教員に伝えることができる。実際に自由記述によって授業が改善された事例もあるため、自由記述欄は必要である。
- ・授業中に教員に意見を伝える場がないため、学生の不満が爆発し、誹謗中傷にあたるコメントが多くなるのではないか。授業中に意見を伝える場を設けることで、誹謗中傷にあたるコメントを減らすことができるのではないか。
- ・自由記述欄に授業の要望を記入しても反映されないため、自由記述欄は必要ない。

2. 学生・教職員FD活動交流会に参加した感想・意見等について

座長から、画面共有資料に基づき、以下の点について、意見交換が行われた。

①FDパートナーとして活動に参加してみて思ったこと

(よかったこと、学びになったこと、取り入れてほしいこと、改善したほうがよいことなど)

②来年度の交流会で論点にしてはどうかと思うこと

③本学の教育全般について思うこと

<主な意見>

- ・小学校の先生を目指しているので、大学の先生方の授業の工夫を知ることや、先生方を身近に感じることができた。学部生、教員など、多様な方と知り合うことができ、人の輪が広がった。
- ・今まで授業を受講する側だったが、授業を評価し、インタビューをするという経験を通して、授業を違う視点からみることができた。教員へのインタビューを通して、今後教員になっていく上で、授業の仕方や生徒との関わり方について勉強になった。
- ・入学したときにFDの話聞き、ベストクラスの授業は全て受講した。どこが評価されているのかという視点で講義を受けることができた。また、万人受けする講義がベストクラスになるが、専門的知見を学問的に追っていくという意味での大学院のベストクラスは、本当の意味で選定されているのだろうかという疑問に思った。
- ・学部生や違うコースの院生との関わりをもつことができ、自分とは違う視点の考え方に触れることができ、自身の学びに繋がった。他コースの講義は受ける機会があまりないので、インタビューを通して先生方の工夫を聞くことができ、現場に戻った際の授業で活かしたいと思った。開催日時を工夫すれば、院生がもっと参加しやすくなるのではないか。
- ・性別、年齢、立場が異なる人と作業することで視野が広がった。先生方のインタビュ

ーを通して、学生との関わり方について知ることができた。エネルギーの高まるワークであった。

- ・夜間の学生が中心のグループで活動したので、その方たちと交流できたことが自分の中で大きかった。
- ・学生・教職員FD活動交流会には、FDパートナー募集のポスターを見て参加した。高校でも授業評価はあったが、その裏側がどうなっているかは知らなかった。FDパートナーとして活動することを通して、授業評価の重要性などを知ることができたので、参加して良かった。
- ・学部生として、院生や現職の方と関わることができる機会が貴重だと感じた。普段講義を受けている時とは違う視点での考え方や意見に触れることができた。
- ・学生・教職員FD活動交流会に参加させていただくことで、普段は関わりのない先生や学生の方と交流することができた。ベストクラスの検討や、意見交換を通して、評価内容や講義の工夫を知ることができ、視野が広がったと感じた。学生・教職員FD活動交流会の具体的な活動内容や活動頻度、活動規模が全くわからない状態で参加に至っていたため、活動の目的や内容を明確に伝える機会があればもっと興味を持ってもらえるのではないか。
- ・交流会のメンバーと話すことで、多様な感じ方や考えに触れることができた。
- ・授業全体を振り返ることで、自分のコースだけでなく、全体を見渡していくことができるため、非常に良い経験になった。枠を超えて交流することで、他分野への興味、関心を広げていくことができた。双方向で意見を反映させていくことの大切さや、生徒たちとどのように授業改善を行っていくかという視点を持てたことが自分の中で大きかった。
- ・初めての経験なので、手探りの状態だったが、色んな人の意見を聞いて、自分の考え方や知見が広がったことが良い経験になった。
- ・優れた授業の基準について深く考える機会となった。受講生や教員の意見をインタビューで聞くことによって、学生が主体的に参加できるように、学びの意欲を引き出す工夫を見つけることができた。自分の学びについても考え直すきっかけになった。自分が様々な授業や講義に参加する時に、受け身ではなく、積極的に参加することに関しても考えるきっかけとなった。



学生FDパートナー募集

本学の教育について率直に語り合いませんか



対象学生 学部学生及び大学院学生

主な活動 ベストクラス候補となる授業科目の選定
学生による授業評価と評価方法の改善

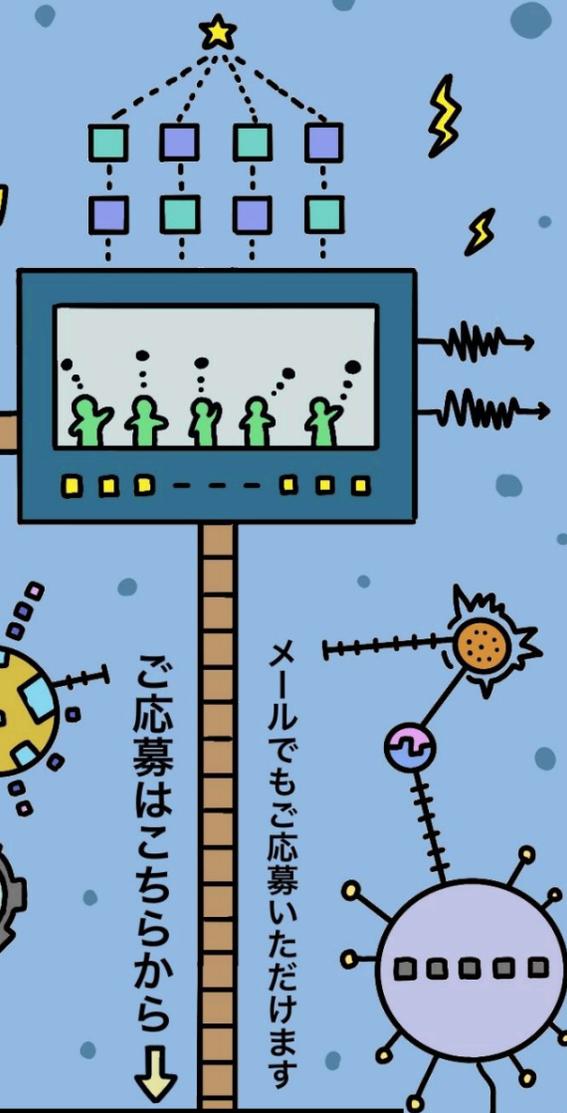
活動期間 令和7年度5月～令和8年度3月(4回程度)

ベストクラス
についてはこちら

学生と教職員が
公式に議論を行う場です

学部生・大学院生・大学教職員等
様々な方と交流できます

FDパートナーには任命証を交付します
大学の公式な活動に参加して
教採でアピールしませんか？



4/28(月)まで

4. いつでもどこでもFD

別記様式2（第8条関係）

2024年度 いつでもどこでもFD 報告書

学生主催のコミュニティ・ハブづくり授業の改善に関する検討会

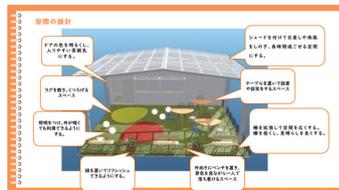
開催日時：2024年7月16日（火） 14時50分～16時50分

開催方法：オンライン

主 催：永田夏来

参加人数：3人（教員2人 学外講師1人：松村淳先生（神戸学院大学））

高校家庭科ではホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動において探究的な学習を行う。家庭科教育法Ⅳでは、探究的な学習を指導できる家庭科教員の育成を目指しているが、受講生たちにそうした学習の経験がない。そこで、家庭科教育法Ⅳの担当者2名は、コミュニティ・ハブづくりをテーマとした学習に取り組ませることにした。学生たち自身が、学内でコミュニティ・ハブになりそうなスペースを探し出し、課題点や改善策を検討し具体的なプランを提案するという内容である。授業では、プランの発表会后に、ロイロノートで振り返りを行った。



←学生がCADで作成したプランの一例

↓学生によるプレゼンの様子



7月16日に、テーマに関する専門家である松村淳先生（神戸学院大学）と本学をオンラインでつなぎ、学生のプランの発表会の様子をオンラインで見させていただいた上で、授業担当者と本授業の成果と課題、改善策について検討した。松村先生には、学生の振り返りの記述なども参照しながら3名で授業について議論した。松村先生からは本取り組みに対して、抽象的になりがちなテーマだが、具体的なディレクションによって意図が明確になっている点などを評価くださった一方で、新たなテーマ案など助言もいただいた。テーマに関する関連書籍をご紹介いただいた。授業担当者は、それらについても勉強しながらテーマについて理解を深め、次年度に向けての改善策の検討を継続することとした。



2024年度 いつでもどこでもFD 報告書

名古屋大学主催シンポジウム「未来/AI 社会のキャリアに向けた大学教育のカリキュラム」

開催日時：2024年10月3日（木） 13時00分～17時15分

開催方法：名古屋大学東山キャンパス環境総合館レクチャーホール

主催：名古屋大学

参加人数：1人（教員1人）

〈概要〉

その可能性を拡張し続けていくAIと私たちが共存する社会にあって、大学教育に求められるものは何か。本シンポジウムのねらいは、この問いをめぐって、参加者に深い思考をもたらすことであった。

まず、美馬のゆり氏（公立はこだて未来大学）から「AIの社会的影響と教育の転換」と題した基調講演が行われた。つづいて、杉谷祐美子氏（青山学院大学）、福留東土氏（東大）、鈴木泰博氏（名大）より、各々の専門の立場からの講演があった。

〈得られた成果、課題等〉

ここでは、美馬氏の基調講演の内容に焦点を絞って報告することにしたい。

美馬氏は、AIの登場によって教育は大きな転換期を迎えているとしたうえで、AIの問題点の一例として、O'Neil(2017)が指摘した3つの要素を引いた。それは、「不透明性」（システムの機能が不透明だと、何が起きているのか誰にもわからない）、「規模拡大」（システムが大きくなると、間違いが非常に大きな代償をもたらす）、「有害」（システムは、ユーザ

ーから見えないところで、弱者に損害を与える可能性がある）、である。加えて、「直接測定が難しいときに、判断の材料として代わりに使うデータ」（美馬、2024）である「代理指標」が孕む問題点についても言及された。そして、これらの要素が組み合わさることで、AIが独自の害を生み出す可能性が指摘された。

ならば、未来/AI社会の教育と学習に求められるものは何か。それは、「AIリテラシーの育成」「学習観の転換」であるという。そして、PBLの新たな形態である「ELSI志向PBL」や「Discussion-Based Learning」等が有効なアプローチの一例として紹介された。そこでは、他者と対話するなかで、多様性を理解しつつ、問題の背後にある倫理的・法的・社会的課題の側面をバランスよく考慮しながら、批判的に思考し、自分なりの考えを形成することができる、と想定されていた。

〈今後のFD活動への示唆〉

例示されたようなアプローチをいかに実現していくか。これが、今後のFD活動の切要な論点になるだろう。

本学におけるFDの定義について

兵庫教育大学におけるFDとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

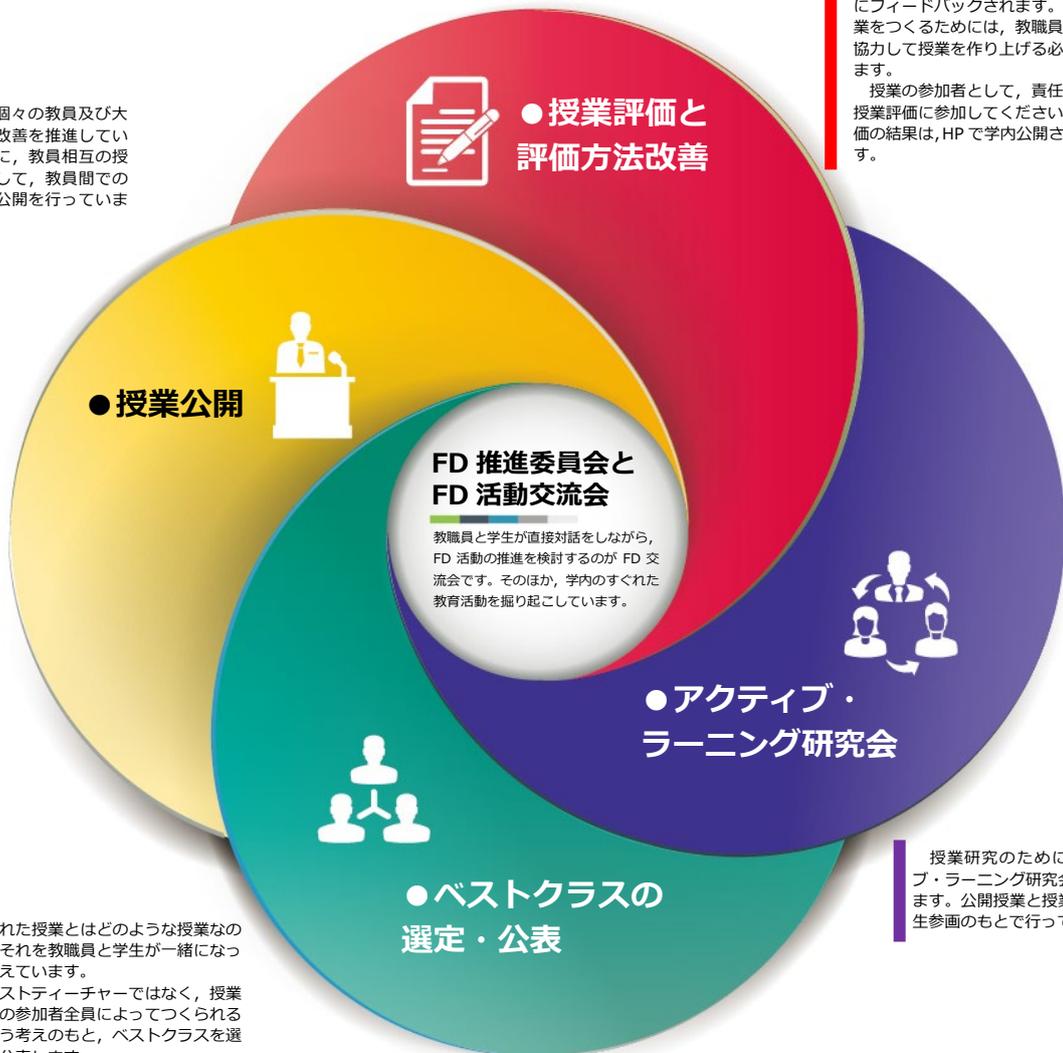
- (1) 本学のミッション及びビジョンを実現すること (What for)
- (2) 全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をFD活動と認識すること (What)
- (3) 教員と事務職員が協働し、学生の参画を推進すること (Who)
- (4) 教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、更なる改善・充実を組織的に図ること (How)

兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

FD とは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学における FD とは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に、教員相互の授業研究の場として、教員間での日常的な授業公開を行っています。



前期末および後期末に全ての授業で授業評価を行っています。評価結果は10～11月（前期）と4～5月（後期）にフィードバックされます。優れた授業をつくるためには、教職員と学生が協力して授業を作り上げる必要があります。

授業の参加者として、責任を持って授業評価に参加してください。授業評価の結果は、HP で学内公開されています。

優れた授業とはどのような授業なのか。それを教職員と学生が一緒になって考えています。

ベストティーチャーではなく、授業はその参加者全員によってつくられるという考えのもと、ベストクラスを選定し公表します。

授業研究のために、アクティブ・ラーニング研究会を行っています。公開授業と授業研究会を学生参画のもとで行っています。

国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

(平成 16 年 4 月 1 日規程第 17 号)

改正 平成 17 年 3 月 31 日 平成 17 年 9 月 6 日
平成 18 年 3 月 8 日 平成 18 年 7 月 12 日
平成 18 年 12 月 6 日 平成 19 年 3 月 14 日
平成 20 年 1 月 16 日 平成 20 年 3 月 11 日
平成 23 年 3 月 14 日 平成 24 年 3 月 26 日
平成 25 年 4 月 2 日 平成 28 年 1 月 13 日
平成 29 年 3 月 29 日 平成 29 年 6 月 30 日
平成 31 年 2 月 12 日 令和 2 年 3 月 11 日
令和 3 年 3 月 26 日

(設置)

第 1 条 国立大学法人兵庫教育大学(以下「本学」という。)におけるファカルティ・ディベロップメント(教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。)の推進を図るため、国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(構成)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長のうち学長が指名した者 1 人
- (2) FD 推進担当の学長特別補佐
- (3) 次のア、イ及びウの区分により各専攻からの推薦に基づき学長が指名した者
 - ア 人間発達教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 2 人
 - イ 特別支援教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 1 人
 - ウ 教育実践高度化専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 3 人
- (4) 学長が指名した者

2 前項第 3 号及び第 4 号に規定する委員の任期は、2 年とする。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第 3 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第 1 項第 2 号に規定する学長特別補佐をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(所掌事項)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を企画し、及び実施する。

- (1) FD に係る調査・研究に関すること。
- (2) 教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。
- (3) 教育改善に係る評価に関すること。
- (4) その他 FD に関すること。

(議事)

第 5 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第3号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該委員が所属する専攻の教授、准教授、講師又は助教を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第7条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月31日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成17年9月6日)

この規程は、平成17年9月6日から施行する。

附 則(平成18年3月8日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成18年7月12日)

この規程は、平成18年7月12日から施行する。

附 則(平成18年12月6日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月14日)

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第2号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則(平成20年1月16日)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 11 日)

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 3 月 14 日)

- 1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行後第 2 条第 1 項第 3 号及び第 4 号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず平成 24 年 3 月 31 日までとする。

附 則(平成 24 年 3 月 26 日)

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 25 年 4 月 2 日)

この規程は、平成 25 年 4 月 2 日から施行し、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 28 年 1 月 13 日)

- 1 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行後第 2 条第 1 項第 3 号及び第 4 号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則(平成 29 年 3 月 29 日)

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 6 月 30 日)

この規程は、平成 29 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 2 月 12 日)

- 1 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に改正前の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき特別支援教育専攻から推薦された委員である者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき同専攻から推薦された委員、教科教育実践開発専攻に所属する者として専攻から推薦された委員である者のうち、芸術系教育コースに所属する者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき人間発達教育専攻に所属する者として専攻から推薦された委員、理数系教育コースに所属する者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき教育実践高度化専攻に所属する者として専攻から推薦された委員であるとみなし、その任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず残任期間と同一の期間とする。

附 則(令和 2 年 3 月 11 日)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 2 年 3 月 26 日)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

平成 21 年 11 月 6 日
学 長 裁 定
改正 平成 26 年 6 月 2 日

授業公開の実施に関する申合せ

1 授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2 対象授業

原則として、授業は全面公開とする。ただし、授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

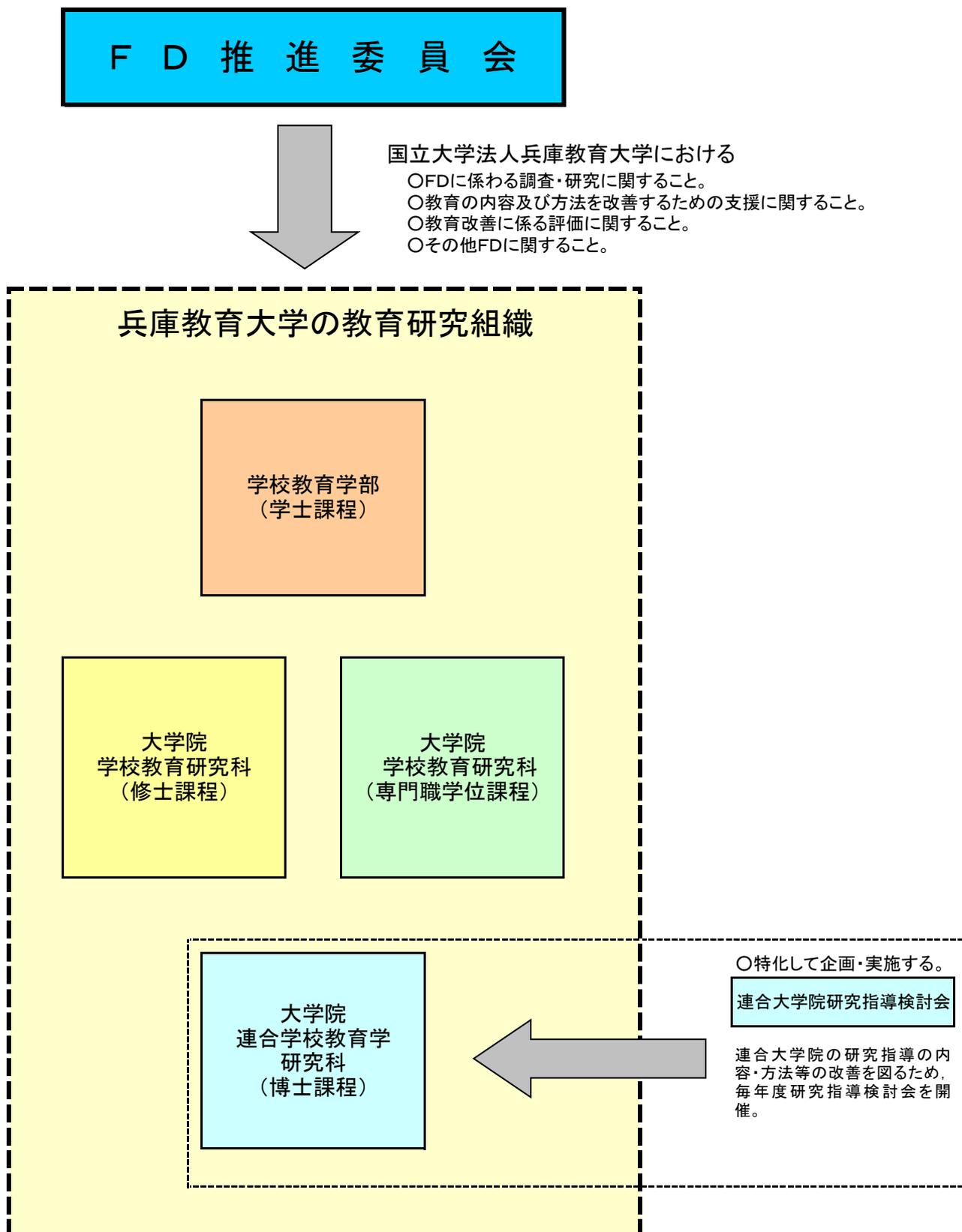
3 公開期間

各教員においては、日常的に「授業研究」を行い、授業の改善に努めているところであるが、このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため、個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合、授業公開に参加を希望する教職員は、当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。ただし、日常の教育活動を保証するため、次の期間については公開の対象としない。

- (1) 定期試験の期間
- (2) 学期当初の期間（1～2週間）
- (3) 実地教育等に関わる期間

FD活動

本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図



ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿

令和6年4月1日

所属等	職名	氏名	任期	備考
—	副学長	須田 康之	—	第1号委員
—	学長特別補佐 (FD推進担当)	山中 一英	—	委員長 第2号委員
人間発達教育専攻 芸術表現系教育コース	教授	野本 立人	R6.4.1 ～R8.3.31	第3号委員
人間発達教育専攻 生活・健康・情報系教育コース	教授	永田 智子	R5.4.1 ～R7.3.31	第3号委員
特別支援教育専攻 障害科学コース	准教授	中島 武史	R6.4.1 ～R8.3.31	第3号委員
教育実践高度化専攻 教育方法・生徒指導マネジメントコース	准教授	伊藤 博之	R5.4.1 ～R7.3.31	第3号委員
教育実践高度化専攻 理数系教科マネジメントコース	教授	吉川 昌慶	R6.4.1 ～R8.3.31	第3号委員
教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別コース	教授	筒井 茂喜	R5.4.1 ～R7.3.31	第3号委員
—	副学長	吉水 裕也	R5.4.1 ～R7.3.31	第4号委員